

※ご意見につきましては、一部読みやすくするために要約・修正等を行っています。

No. 1		
意見内容	市の考え方・今後の対応等	意見配慮区分
<p>・モンベル誘致の取組みは「新たな挑戦」として評価します。私の知る限り留萌市はこれまで企業誘致に成功した例がなく、マチづくりの起爆剤として種をまいたことにエールを送ります。</p> <p>・企業誘致には相手があり、ラブコールを繰り返してもそっぽを向かれればそれまで。有名ブランドのモンベルが振り向いてくれたことは成果ととらえます。</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。</p> <p>●人口減少問題に直面している留萌市においては、(株)モンベルを誘致することで、民間活力による本格的なアウトドア観光を推進し、交流人口や関係人口を創出することによって、新たな誘客と人流を生み、地域経済の活力や、市民の生活の質を豊かにすることが重要と考えています。</p> <p>●企業誘致において、撤退のリスクは否定できないことは事実ですが、留萌市が目指す交流人口の拡大や、留萌エリアの地域住民の店舗利用が広がることで、リスクを回避できるものと考えております。なお、モンベルは公設民営によって10店舗出店していますが、現時点で一つも撤退していないと認識しております。これからも、(株)モンベルの誘致に向け、交渉に取り組んでいきます。</p>	B
<p>・基本計画を一読し「内容が難しい」「説明が長い」「現実味がない」との印象を受けました。モンベル誘致に反対する市民の意見にもありますが、留萌市民の中にアウトドアへのニーズが多くあるとは思えません。</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。</p> <p>●今回いただきました基本計画についてのご意見を受けまして、よりわかりやすく、シンプルにご説明する概要版を今後作成することとします。また、アウトドアにつきましては、SUPやサイクリング、釣りなど留萌で楽しめるアウトドアを楽しんでいる市民の方、また市外からも楽しみに留萌に来られる方も一定数いらっしゃると思っております。</p> <p>●しかしながら、そもそもアウトドアについてのイメージが持てなかったり、ほとんど触れたことがない市民の方がいらっしゃることも事実かと思えます。令和5年度においては、そうした市民の方にまずはアウトドアに触れていただく機会として、SUP体験会や初のロゲイニングイベントの開催などを実施しました。</p> <p>●今後も、アウトドアに馴染のない方でも、健康促進などの観点から、気軽にご参加いただけるアウトドア体験商品の開発に取り組み、より多くの市民の方にアウトドアに触れていただけるよう取り組んでまいります。</p>	C

<p>・バラ色の未来を描かず「モンベルが来ても道の駅がにぎわい、モンベルのノウハウを生かした事業を試しながらニーズに合った事業を構築していく」程度の堅実な表現が、現時点では良い気がします。歯の浮いたような表現はマイナスイメージになると思います。</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。 ●今回の計画につきましては、期待を持たれている方もいる一方で、不安や疑問の気持ちを持たれている市民の方もいらっしゃると思います。 ●市民の皆様から、そうした不安の声、疑問の声をいただき、丁寧にご説明をさせていただきながら、進めていきたいと考えております。</p>	D
<p>・モンベル誘致に懐疑的な市民、反対する市民がおりますが、まちづくりに連動した事業を推進するうえで「貴重な意見」ととらえるべきと考えます。そうした考えを持つ市役所職員も少なからずいるはずで、失礼とは思いますが、市長を「裸の王様」にしないためにも、ありがたい提言のような気がします。</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。 ●今回の計画につきましては、期待を持たれている方もいる一方で、不安や疑問の気持ちを持たれている市民の方もいらっしゃると思います。市民の皆様から、そうした不安の声、疑問の声をいただき、丁寧にご説明をさせていただきながら、進めていきたいと考えております。</p>	D
<p>・民間企業ですから「儲からなければ撤退する」不安はありますが、企業誘致にリスクを伴うのは当然。それを払しょくする計画づくりが求められます。</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。 ●企業誘致において、撤退のリスクは、否定できません。しかしながら、(株)モンベルは、地方への出店に際し、過度な利益を求めての出店意向ではなく、むしろ都市部よりもモンベル製品が活用可能なアウトドアフィールドのある地方へ進出し、モンベルの看板で地方が元気なことを重視した企業理念を確認しているところです。 ●現時点で、公設民営方式により、国内でも同様の取り組み事例がございますが、一つも撤退しているところはありません。モンベル誘致を契機に、むしろ、撤退につながらないような、魅力あるまちづくりを進めていきます。</p>	D
<p>・「モンベルが来るのはいい。でも大丈夫なの？」という市民に加え、無関心層もいるため、できるだけ分かりやすく説明することが大切です。</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。 ●市民説明会においても、財政的な懸念の声に加えて、そもそもアウトドア自体が何かもわからない高齢の方が多く、もっと優しく、わかりやすく説明してほしいというご意見がありました。 ●今年度については、広報留萌11月から5回に渡って、「なぜモンベルなのか」「なぜアウトドア観光なのか」「そもそも留萌で楽しめるアウトドアとは何か」などについて、なるべくわかりやすくシンプルにお伝えする取組を実施してまいりました。今後は、幅広い層に届き、よりわかりやすく市民の皆様への不安に寄り添えるような形を検討し、実施してまいります。 ●基本計画についても、今後、概要版を作成し、よりわかりやすく、シンプルにご説</p>	C

	明していきます。	
・アウトドア・アクティビティですが、マサリバツ望洋の森、るるもっぺ憩いの森は閑古鳥が鳴き、サイクリングやカヤックに賑わい創出のニーズがあるとは思えません。	<ul style="list-style-type: none"> ●ご意見ありがとうございます。 ●マサリバツ望洋の森、るるもっぺ憩いの森については、トレッキングルートとして、今後活用を検討しておりますが、まだ整備が十分行き届いていないものとして認識しております。 ●まずは、利用しやすい環境を整備するとともに、具体的な活用方法についても、今後検討をしていきます。 	C
・「カーボンニュートラル」「自然保護」「野外体験」といった言葉の羅列は、計画を無理に美化している印象を受け、強調しない方がよさそうに感じます。	<ul style="list-style-type: none"> ●ご意見ありがとうございます。 ●今回ご意見いただきました言葉につきましては、今後、洋上風力発電や太陽光発電などによる再生エネルギーをヴィレッジ内で活用することも検討可能であることから、「カーボンニュートラル」との表現とし、モンベルの7つのミッションにも「自然環境保全意識の向上」とあるように、アウトドア（「野外体験」）を通して自然に触れることで、自然保護意識の向上につながるという点から、「自然保護」という表現を使用しております。 	D
・例えば「モルック体験」ですが、体験会の定期開催など、普及のための事業を地道に展開することも大切で、市民応援団のような組織ができるとう現実味が増します。	<ul style="list-style-type: none"> ●ご意見ありがとうございます。 ●令和4年、令和5年にわたり、SUPについては、体験会を複数回実施し、少しずつSUPを楽しまれる市民の方も増えているものと認識しております。幅広い市民の方がアウトドアに触れていただけるよう、SUPのみならず、公園を使ったモルック体験など、幅広い方にも気軽に楽しんでいただけるアウトドアも含め、体験機会の創出により取り組んでいきます。 	C
・拠点施設の場所（位置）は、旧JR駅舎を撤去した後の周辺環境整備を見極めてから判断しても良く、計画段階かもしれませんが、いささか「あせり」を感じさせます。	<ul style="list-style-type: none"> ●ご意見ありがとうございます。 ●拠点施設の位置につきましては、当初構想の位置、現在の基本計画（案）の位置、その他の位置など、様々検討をいたしました。道の駅利用者を街中へいかに誘導していくかなど、道の駅既存施設や新交流複合施設などとの連動制を鑑みて、現在の位置とすることにいたしました。 	D
・芝生広場は現状維持とのことですが、利用実態がつまびらかにされておらず、ニーズ把握も含め、確定させるには時期尚早と考えます。	<ul style="list-style-type: none"> ●ご意見ありがとうございます。 ●広大な芝生広場については、道の駅るもいの魅力の1つでもあり、日常での運動やウォーキング、子ども達も自由に活動できる空間など、市民の皆様にご利用いただい 	C

	<p>ている実情から、現状ではそのまま維持することとしておりますが、今後のより良い活用については、市民の皆様からの声をいただきながら、検討していきます。</p>	
--	--	--

No. 2		
意見内容	市の考え方・今後の対応等	意見配慮区分
<p>・子育て中、子どもを連れて、ほんの少しでもホットでき、安心して普段使い出来るカフェの様な空間が欲しいです。フードコートの様なものではなく、落ち着ける空間を作ると若い子育て中の方に関わらず、学生も学校と家の他に自習などの居場所ができると思います。</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。 ●現在、拠点施設内の物販・飲食スペース及びヴィレッジAエリアについて、検討を進めるためのサウンディング調査を実施しております。 ●今回いただいたご意見及びサウンディング調査も踏まえ、どのような施設、エリアとすべきか検討をさせていただきます。</p>	C
<p>・風が強いマチなので、子連れでも車を止めやすい駐車スペースが欲しい（スライドドアではない車だと、隣の車にドアを当ててしまうのではないかと心配です）</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。 ●今後、駐車場の設計を進めるにあたり、ご意見を参考にさせていただきます。</p>	C
<p>・パン屋などがあれば、子どもがおなかをすいた時に簡単に食べさせられて、道の駅、「ちゃいるも」や外の施設、などでも滞在時間が増やせると思います。（観光客目線の高価で珍しいものではなく、市内の住民も普段使いで来れる空間の工夫をお願いしたいです。）</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。 ●現在、拠点施設内の物販・飲食スペース及びヴィレッジAエリアについて、検討を進めるためのサウンディング調査を実施しております。 ●今回いただいたご意見及びサウンディング調査も踏まえ、どのような施設、エリアとすべきか検討をさせていただきます。</p>	C
<p>・モンベル誘致は、若い世代では賛成の方も多くおります。（なかなか、反対派的な方の声が大きくて、賛成と言えない雰囲気とのこと）中には、モンベルの商品を、なぜ留萌で売なのか、ネットもあるし、ましてや市内同業種との競争になるという意見も聞きます。しかし、子どもを持つ親として、成長著しい子供に試着をさせたり、素材を手で触れて確認したりすることは、本当に大切です。その為に、札幌や東川など行きたいのですが、子育て中には、難しいのが現状です。留萌市にモンベルが出来ることで、留萌市民に関わらず周辺地域の子育て中の親御さんにとっては、子どもにあったものを安心して選べるという事に繋がります。</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。 ●現状、遠くまで行かなくては購入できない、または試着なしにオンラインで購入するしかない状況の中、特に子供用衣服などは、今後の成長を見据えたサイズ感の検討が必要であり、市としても、今回の（株）モンベル誘致に伴い、近い場所で、高品質の衣類などを直接確認、試着し、購入ことができる場所ができることは、大変喜ばしく、市民の方々にも多く利用いただきたいと思っております。また、キッズ用の衣服も豊富に取り扱っていただけるよう、モンベル側とも協議したいと思っております。 ●今後も、取組に関するご関心とご意見をよろしくお願いいたします。</p>	D
<p>・若い世代もモンベル誘致の市民意識を醸成したい方もいるようです。簡単に、機運を高める仕掛けづくりを創って欲しいです。例えば、モンベルのクマとカズモちゃんの顔はめパネルなどを作って、SNSで発信しやすくしたり。市民も誘致に参加できる取り組みを</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。 ●市としても、モンベル誘致に向け、市内における機運醸成の取組を検討していたところでした。今回いただきましたアイデアを含め、市民のみなさんにも参加していただけるような取組を検討させていただきます。</p>	C

探ってはいかがでしょうか。	す。	
<p>・アウトドアを実際にしない、市民やアウトドアを身近に感じられる仕組みを取り入れてほしいです。（例えば、東川のモンベルの様に2階に様々な自然の写真を展示できる画廊のようなものをつくり、留萌市内や管内の写真家の方々に定期的に写真を展示して頂く事で、市内外の方々に留萌管内の自然を身近に感じてもらえる仕組みづくりなど）</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。 ●今後は、チェアリングやモルックなど、アウトドアに今まで触れたことがない方でも気軽にご参加いただけるような、ハードルの低いアウトドア体験を提供するとともに、ご意見いただきましたような、アウトドアや自然について知って、感じてもらう機会の創出についても、今後検討をさせていただきます。</p>	C
<p>・モンベルが誘致出来た後、この政策が持続可能にしていくために地域全体で、一人でも多くの方が主体的にアウトドアや地域づくりが出来る仕組みとして、「地域DMO」の存在は必要不可欠と認識しております。是非とも、実現に向けて、官民で力強く進めてほしいと思います。</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。 ●現在、検討を進めております、DMO（観光地域づくり法人）については、留萌という地域で、観光を通して、いかに効果的、持続的なまちづくりを進めていくかにおいて、大きな役割を持つものと認識しております。実現に向けて、地域の関係者の皆様と協議しながら、検討を進めていきます。</p>	B
<p>・アウトドア施設とエリアA、そして、旧留萌駅前の商店街の人流を加速するためにも、街中誘導の仕組みや取り組みの為に、集中して議論する場所と共に、様々なチャレンジが出来る（イベントや取り組み）を応援出来る仕組みも必要かと思えます。</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。 ●ご意見いただきましたとおり、拠点施設からヴィレッジエリアA、旧留萌駅前を通過して、街中の商店街等への人流の動線づくりが必要と強く認識しておりますので、現在検討中のDMO（観光地域づくり法人）を中心として、商店街の皆様にもご意見をいただきながら、様々な取組を検討していきます。</p>	C

No. 3		
意見内容	市の考え方・今後の対応等	意見配慮区分
<p>・反対いたします。南富良野町のモンベルショップに、秋・冬と行ったが、季節によるのか客はいませんでした（数人）。アウトドアブームがすでに下火と思われ、このブームが長期に続くのか疑問です。国の補助金が出るとはいえ、市の財政は農林水産に力を入れて、今後の集客に活用した方がよいと思う。</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。 ●留萌の魅力の一つである「食」分野については、今年度につきましても、道の駅を中心とした新商品開発事業や市内事業者の販路拡大に向けたPR活動など、取り組んでいるところです。今後は、そうした「食」の魅力に加えて、アウトドア体験という新しい魅力を作っていくことで、観光客が留萌を訪れる理由、きっかけを増やしていきたいと思っております。 ●また、アウトドアにつきましても、コロナ禍のブームが既に収束したのではないかという声もありますが、一方で、文化として定着し依然として底堅い需要を今後も維持できるのではないかという前向きな市場調査結果も出ております。 ●ご意見いただきましたとおり、観光客の集客につなげるためには、「食」を支える1次産業分野についても、これまでと同様に</p>	D

	力を入れて取り組む必要があると認識しておりますので、引き続き取組を進めていきます。	
--	---	--

No. 4		
意見内容	市の考え方・今後の対応等	意見配慮区分
<p>・大半が物販販売の建物ですね。市が国の補助金が出るといえ、一企業のショッパになるのは疑問です。今年のような大雪、吹雪、交通の混乱の留萌市、歩道の補修も悪く数年前には足をとられ骨折もしました。お金をもっと私たちの生活に直接かかわるところに使ってほしい。この誘致に反対します。</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。</p> <p>●今回の取組につきましては、留萌で楽しめるアウトドアの魅力の発信に加えて、実際に始めるためのアウトドア用品や、始めるきっかけづくりとしての体験商品の提供など、単なるショッパの誘致ではなく、道の駅もいのある新たな魅力づくりと、本格的に留萌でアウトドアを推進していくための拠点づくりを進めるものです。</p> <p>●市としましては、人口減少によって、生活していくことが難しく、留萌を離れなくてはならない市民が今後、更に増えてしまう状況を踏まえ、アウトドア観光を進めることで、留萌市を訪れる観光客に地域を支えてもらい、生活機能を維持して、市民生活を守っていきたく現在の取組を進めております。</p> <p>●こうした未来に投資するような施策とは別に、ご意見いただきましたような、除雪対策や歩道補修に加えて、市民の皆様から要望としていただいております、公園のサービス水準の向上や高齢者の生活の暮らしを支えていくような施策は、市の責務として当然組まなくてはならないものと理解しております。</p>	D

No. 5		
意見内容	市の考え方・今後の対応等	意見配慮区分
<p>・ヴィレッジエリアCの活用について、初期の計画ではこのエリアはコテージエリアでしたが建設費が莫大なことなどから一旦、計画が白紙になったと記憶しています。しかし、これからの留萌市の政策において、モンベルアウトドアヴィレッジ、小麦のサイロ、JR留萌駅解体、旧留萌駅周辺開発、留萌港の海上自衛隊補給港誘致、海洋風車誘致、文化教育施設整備などの計画がある中で、これらを実行していく場合、建設工事業者の宿泊施設が不足し、せっかくの留萌に落ちるお金が近隣に流れていく事を防ぐためにも、宿泊施設を増やしていかなければなりません。</p> <p>・私が考えた案ですが、建設費を最小限に抑</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。</p> <p>●より地域に稼ぎを生むため、滞在型観光を目指している市としましても、宿泊施設については大きな課題として認識しており、ヴィレッジエリアCを宿泊施設の整備も視野に検討するエリアとして設定したところです。</p> <p>●現在、拠点施設内の物販・飲食スペースに加えて、ヴィレッジエリアCを含む、ヴィレッジエリア全体の出店意向について、該当職種の事業者様向け、サウンディング調査を実施しています。</p> <p>●コンテナホテルを含む、様々な宿泊施設の形態についても、今回のご提案及びサウ</p>	C

<p>える秘策があります。エリアC最近急増しているコンテナホテルを計画しています。総事業費建設した場合の15～20分の1に抑えられます。イメージしやすい資料として、ホテルR9を検索してください。昨今の、建設資材高騰を考えたら、官民が双方の負担額を最小限に抑えることで実現可能だと考えます。コスト面、人材確保においても自動チェックイン機などでの導入で持続可能なノウハウを活用することがこれからの宿泊業の新しいモデルになると思いますので、是非検討をお願いします。</p>	<p>ンディング調査結果を踏まえ、検討をさせていただきます。</p>	
---	------------------------------------	--

No. 6		
意見内容	市の考え方・今後の対応等	意見配慮区分
<p>・下記理由から「この事業は断念しなければならず、基本計画案は廃案にすべきである」と意見する。</p> <p>①拠点施設は、面積割合から「物販・飲食サービス」が81.5%となっているのに対して、公共部分が6.4%のみとなっているため、地方自治法で規定されている「公の施設」には該当せず、「行政が整備できない施設」である。</p> <p>②上記により、「公の施設」に該当しないとすると、本来、民間の資金で整備するものと理解すべきものであり、投資資金を回収できる目途があれば実施、目途がなければ断念という判断をする必要がある。しかし、現時点での計画では、投資費用にあてるための「家賃」が算定中となっており、経営計画が示されておらず、その判断ができない。</p> <p>③船場公園管理棟や屋内交流・遊戯施設と比較すると、物価高騰とはいえ、整備費が高すぎる。モンベルを前提とした仕様によるグレードが高く、道内最大級の面積規模とするための施設とするためであれば、本末転倒ではないか。モンベルの入居を前提とした店舗を建てることは、特定企業への便宜供与とも受けとれ、税の使い道として許されることではない。</p> <p>・既に全国展開している企業に頼るのではなく、地元産業の育成を目的に、地元企業と人材に見合ったグレードと規模の施設整備として、「地元企業の育成、地場製品のアンテナショップとしてやる気のある企業がリスクを恐れずチャレンジをする場」とすれば、公共的役割として市民の理解にもつながる。</p> <p>④巨額な整備に対して、事業の目的が明確ではなく、将来の市民生活や市内経済に及ぼす</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。</p> <p>●公設民営の考え方は、温泉や宿泊施設などの観光施設に代表されるよう、地方においては一定の公共的な役割を担いながら、民営による維持管理を基本とした公共施設の整備、運営手法として採用されているものと理解しております。</p> <p>●道の駅や観光施設など、集客からの収益を前提とした施設整備で、故に、不特定多数の利用に供する施設ではあるが、従来の「教育や福祉」のような非収益施設にはこの考えは当てはまらないものであります。</p> <p>●「公の施設」＝「不採算」では、これからは成り立たないものと考えており、解釈の幅を広げ、道の駅の魅力づくりと、民間参入を促すための方策として、官民の垣根を取り払い、協力、連携しながら地方の魅力を引き出せる企業誘致の手法として、最も有効かつ、市の負担も少なく、将来持続性のある方法として採用するものであります。国内他地域においても、同様の手法で公の施設として、行政目的に沿った施設として整備し、条例化して運用されているものであります。</p> <p>●「まち・ひと・しごと創生法」が定められた事がきっかけとなり、「地方創生」という言葉が認知され、国を挙げての地方創生の取り組みは、現在も類似した法案や戦略を基に引き続き推進されています。10年経とうとしている現在、既に地域活性化に成功した自治体も多数あり、その成功例の1つがモンベル誘致による地域活性化の取り組みであります。</p> <p>●道の駅の魅力づくりと、本拠点施設を核に、地域のアウトドアフィールド、資源に</p>	<p>D</p>

<p>影響、展望も描かれていない。記載されている波及効果の算出は、アウトドア産業はピークを過ぎたというデータもあり、積算根拠が乏しく、説得力がない。「モンベルの誘致と拠点施設整備」こそが目的であり、その裏付けとしての基本構想、基本計画案に過ぎないため、市民の心配に反して、商業施設整備に税金を投入する後ろめたさや、整備後の経営リスクへの懸念もない。</p>	<p>惹かれ、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を創り出し、「まち」に活力を取り戻すことで、自立性と持続性を確立できる仕組みを作りが必要であり、地域の強みを生かした、新たな産業、企業を呼び込み、魅力とやりがいを感じることができまちなちづくりを進めていくことが重要と考えておりますので、ご理解いただきたいと思っております。</p>	
<p>・一度立ち止まり、「道の駅留萌」の目的、役割を市民とともに改めて練り直し、将来にも改めて練り直し、将来に向けた機能を再構築すべきである。その上で、その求められる機能を発揮するに必要な施設やソフト事業を整備・実施すべき。</p> <p>・先に結論ありきで、その理屈を後付けするのではなく、各段階で市の内部協議、市民との対話、議会での議論を経るという「意思形成への丁寧なプロセス」を積み重ね、演繹的に結論に辿り着かなければならない。</p> <p>・結論の事業化は行政の権能の範囲でできるもの、あるいは官民の役割分担を明確にして、フェアな仕組みでの民間参入を位置付けるものとすべき。その結果として来訪者にも市民にも市内企業にも喜ばれ、留萌の将来を展望できる「道の駅るもい」になることを期待する。</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。</p> <p>●道の駅るもいは、高規格道路の全線開通を契機に新たな流入人口の増加が予想され、道路利用者の快適性の向上や、来訪者への適切な情報発信はもとより、親子や地域住民などが、ゆっくり時間を過ごせるくつろぎの空間の提供と、道の駅の集客から隣接した街中への消費誘導が図られるような役割、機能が発揮できる「道の駅」として令和2年に開業し、現在に至っております。</p> <p>●「道の駅」の成功事例はありますが、何を持って成功と言えるのかの正解は難しく、「地域」と「利用者」双方から見て、直接効果だけでなく、期待する間接・波及の効果が発現されていることが一つの尺度と考えており、利用者も地域コミュニティも豊かに（幸せ）になれるよう、変化と成長し続けることが求められるものと受け止めております。</p> <p>●設置目的やコンセプトを明確にし、その実現に繋がるよう、本施設をきっかけに地元事業者の参画も期待しているところであります。</p>	C

No. 7		
意見内容	市の考え方・今後の対応等	意見配慮区分
<p>・「基本計画」案につきましては、大筋で賛成いたします。近隣市町村である増毛町は長年実際に「増毛山道」の維持管理に携わってきているので、留萌市としても礼を尽くして、その利用を協議すべきと思っております。</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。</p> <p>●今後、「増毛山道」の活用につきましても、関係団体・市町村の皆様からご協力をいただきながら、検討を進めさせていただきます。</p>	C
<p>・計画的なガイドの育成が必要。地元での育成が必要と感じております。</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。</p> <p>●ガイドの育成については、今後アウトドア商品を本格的に提供していく上で、最も大きな課題と認識しております。まずは地元の愛好家を増やすこと、そしてその上でガイドに関心を持ってもらうきっかけづくりをすることなど、ぜひ、今後ご協力いただきながら、ガイド育成についても取組を進めていきたいと考えております。</p>	C

<p>・留萌道の駅拠点内宿泊施設構築と現地までの交通手段の実現（多人数のガイド付トレッキング等考慮）を早い内に検討していただきたい。留萌～天塩道の駅（115 km）、留萌～増毛（17 km）、留萌～石狩市厚田道の駅（58 km）このように南北に延びる173 kmのオロロンラインが主要ルートとなる。</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。 ●宿泊施設については、現在、拠点施設内の物販・飲食スペースに加えて、宿泊施設を検討するエリアとして設定しましたヴィレッジエリアCを含む、ヴィレッジエリア全体の出店意向について、該当職種の事業者様向け、サウンディング調査を実施しているところです。皆様からのご意見及び調査結果を踏まえ、検討をさせていただきます。 ●アウトドア体験や歴史体験の実施場所までの交通手段の実現については、関係団体からのヒアリングなどにより、より詳細なニーズを把握した上で、検討していきます。</p>	C
<p>・アウトドア・アクティビティ施設として、留萌管内の情報発信拠点となることと、現場を動かす具体的な方策を実施できる権限を持つシステム（協議会）の構築を速やかに実現していただきたい。 ・少なくとも10年、5年毎の留萌市の計画が必要。道の駅対策課を設置し市の意気込みを示すべきです。</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。 ●ご意見いただきました、管内情報の発信やアウトドア体験商品の開発、実施など、アウトドア推進の核を担っていく組織として、現在、DMO（観光地域づくり法人）の立ち上げを検討しております。 ●立ち上げに際しては、地域の関係者の皆様と協議しながら、検討を進めていきますが、DMOにおいて、官民連携しながら、長期にわたる観光戦略・計画等の策定や、効果的な道の駅推進などについても、進めていければと思っております。また、既に「道の駅等連絡協議会」という留萌管内の道の駅等で情報交換等を実施する場もあり、継続して参画して検討していきます。</p>	B
<p>・サイクリングでは既にオロロンラインサイクルツーリズム推進のサイクルルートが、両自治体他と協働できていると伺っております。</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。 ●おっしゃられたとおり、サイクリング分野では、留萌市も参画しておりますが、留萌管内における「オロロンラインサイクルルート連絡協議会」において、試走会や様々な情報交換など、管内連携が進められております。 ●昨年には、SUPや登山など、留萌管内のアウトドア愛好家を中心とした「るもいアウトドア観光ネットワーク会議」を発足し、体験会の実施や情報交換、今後のアウトドアの進め方についての議論などを進めているところです。 ●現在はSUPの愛好家の方に多くご参加いただいておりますが、今後は登山・トレッキング、サイクリング、自然観察など、幅広い分野で楽しまれている管内の愛好家にも輪を広げていき、留萌管内での連携を深めていく必要があると認識しております。</p>	B
<p>・通年での誘客、特に冬季については難しい</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。</p>	D

<p>が、モンベルさんと協働することにより何かアイデア生まれれば嬉しいですね。</p>	<p>●留萌の厳しい冬、そして春先など、夏以外の集客につきまして、市としても課題として認識しており、(株)モンベル含む、様々な事業者様、市民の皆様からご協力をいただきながら、より良い施策を検討していきます。</p>	
<p>・推奨施設①廃線になった留萌線の歴史を学べる施設（駅施設の一部や車両丸ごとの保存）、②静岡県三島市の三島スカイウォーク併設の巨大ジャングルジム（ハーネス等の確保道具のレンタル込み→幼児から上級者まで賑わっていました）</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。 ●今回いただきました、ヴィレッジエリアの整備アイデアも踏まえ、ヴィレッジ全体の活用方法について検討をさせていただきます。</p>	C

No. 8		
意見内容	市の考え方・今後の対応等	意見配慮区分
<p>・人口減少社会において新規企業の誘致は歓迎いたしますが、市内既存事業者が撤退・廃業などに追い込まれた場合本末転倒ではないでしょうか。</p> <p>・民業圧迫を行政が留萌市の財源を使って行うということは留萌市民の流出に拍車をかける行為です。街中誘導の取組をすることと、行政が今回計画することに何らの有益性は見出せません。人口減少に歯止めをかける取組としてアウトドアに特化した事業が有効であるという実績が示されていません。今般の計画の中核テナントのモンベルにおいては、他の自治体においても同じ手法で出店しているようですが、道の駅というよりモンベルの顧客誘導には成功するでしょうが、留萌市の既存事業者にも十分ご意見、ご協力をいただきながら、有効策を検討していきます。</p> <p>●また、公共施設であっても道の駅のような集客施設については、不採算ありきではないけないという視点から、設置は市で行うものの、今後のランニングコスト部分を事業者負担が可能な公設民営という手法が望ましいと判断しております。</p> <p>・自治体の事業一つ一つにだれも責任は取らず、結果として負の遺産の数々を残してきました。人口減少社会においてこの責任を次世代に背負わせるのはあまりに無責任と言わざるを得ません。</p> <p>・厳しい財政状況下に多くの市民サービスを廃止してきた責任も取らず、何もなかったかのように新たな取組を行う補助事業の危険性を市民の皆さんに知らせることが第一義であると思います。【公設民営の手法によるモンベル出店要請に反対いたします。】</p> <p>・今般この事業に着手するにあたり同様の形態で誘致している自治体を調査していることと思います。担当部局の説明は説明会では何ら見えてくるものがなく、歯に衣着せて奥歯にもものを挟めた説明であり、承服できるものがありませんでした。</p> <p>・理事者の常識からの脱却というフレーズと稼ぐ観光というワードは今般の計画と整合性</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。</p> <p>●(株)モンベルの参入は、民業圧迫ではなく、新しい誘客層をまちなかに誘導していくことで、今までの顧客だけではなく、新たな顧客層を得ることにつながり、人口減少の中でも、既存事業者の経営にもプラスになるものと考え、商業者においても期待しているものと受け止めております。具体的な街中誘導については、既存事業者にも十分ご意見、ご協力をいただきながら、有効策を検討していきます。</p> <p>●また、公共施設であっても道の駅のような集客施設については、不採算ありきではないけないという視点から、設置は市で行うものの、今後のランニングコスト部分を事業者負担が可能な公設民営という手法が望ましいと判断しております。</p>	D

<p>を見出せるものではありませんでした。留萌市にとってハイリスクローリターンにしか見えない事業であり、費用対効果を考えると前に進める車輪は火の車であります。</p>		
---	--	--

No. 9

意見内容	市の考え方・今後の対応等	意見配慮区分
<p>・ビレッジエリアAについて、年間30万人を超える来場客数があり、年間の地域への経済波及効果が1億3千万円を超える道の駅るもいから旧留萌駅までの動線（ビレッジエリアA）が今後のキーポイントとなります。当該基本計画（案）にも「旧JR留萌駅跡地までの歩行空間の整備」とありますが、屋外で楽しめる要素を取り入れた施設はもちろん、商業施設を含めた魅力あるコンテンツを沿道に並べ、ワクワクした気持ちのまま気づいたら駅跡地エリアに辿り着くといった環境づくりが必須であると考えるところです。また「歩行空間」とはいえ、通年利用を前提とすべきであり、屋根、壁面による全天候型が強く望まれます。</p> <p>・一例として、公設民営あるいは民設民営の民活により、市内の事業者を中心とした店舗や生産現場を見学できるプロムナードなどが挙げられます。</p> <p>・なお、本来であれば今後は最も集客を見込めるアウトドアアクティビティ拠点施設が、旧留萌駅（市街地）に近いところに位置するの（当該エリア内の駅寄り）が望ましいです。これは道の駅から市街地までの人の動線（逆流も同様）を作り出すことが目的ですが、この度の案ではこの間が200m程あり、ただひたすら歩くには長い距離といえます。しかし、空間環境が「にぎやか」、「見るものの多さ」、「明るさ」、「多様性」などの構成要素によって「意識距離」が短く感じられることは学術的に証明されています。200mという歩行距離を意識的に短いものとして感じさせるためには、上記の通り商業機能の充実化は必須であると考えるところです。</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。</p> <p>●今回の拠点施設含めた道の駅と新交流複合施設までの導線をつくることによって、街中へ人を流していくことが必要であると、市としても認識しております。</p> <p>●サウンディング調査結果を踏まえ、今回のご提案含め、その導線づくりについて検討を進めていきます。</p>	C
<p>・アウトドアアクティビティ拠点施設の物販飲食施設の面積や間取り、設備などについては、ビレッジエリアAの使い方（どういった機能をここに入れるかによって、拠点施設との機能分担が変わってくるため）と並行して計画されることと、同時に、出店候補者の意向を取り入れる必要があると考えられます。（使い勝手や顧客の動線は事業者にとって極</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。</p> <p>●拠点施設やヴィレッジエリアAについては、ご意見いただいた点も踏まえ、サウンディング調査を実施した結果をもとに、各役割分担を検討していきます。</p>	C

<p>めて重要)また留萌らしい(鮮魚やコメ、野菜など)物販などが顧客の満足度を高めるために有効であると考えられます。飲食スペースについても、既存の施設との分担を合理的に進めることが必要であると考えます。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・観光案内機能について、既存施設(管理棟、ちゃいるも)などとの合理的な機能分担の再考が必要であると考えられます。(現計画では顧客導線的に不便)現計画では、現状施設の機能をもとに“継ぎ足した”感が否めません。施設単体ではなく、まずは道の駅全体を俯瞰し、顧客動線、利用者目線をもとにした各施設における機能分担を再考する必要があります。 ・施設は中央に通路があり、施設としての一体感が損なわれてしまっている感が否めません。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ご意見ありがとうございます。 ●拠点施設については、ご意見いただいた点も踏まえ、基本計画に反映させていただきます。各役割分担を検討していきます。 	A
<ul style="list-style-type: none"> ・B、Cにおけるキャンプサイトやオートキャンプ場は、宿泊受け入れ体制が十分とはいえない留萌市においては歓迎するべきものではありますが、家族層や着地型来訪者にとっては不十分であることは間違いありません。留萌駅跡地については今回対象外であることから委細についての記載は割愛しますが、留萌駅跡地へのホテルの整備は強く望まれるところではあります。 ・またここ一帯は低地で、浸水想定区域であり、災害時に一時避難ができる高さのある建築物が望まれることも加筆するところではあります。また、それは留萌港や夕陽(利尻富士なども)が一望できる留萌のランドマークとなりうるものと期待するところでもあります。 ・Dについては、港湾エリアであることから、現在のうまいよるもい市など、海のまち留萌を直観的に感じるイベントの開催にも適していると考えられます。またここはトップシーズン期間だけでも、出店ができるような空間があると、さらに多様化する顧客に向けた民間事業展開が期待できます。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ご意見ありがとうございます。 ●ご意見いただきましたとおり、宿泊体制が大きな課題であると市としても認識しており、まずはBエリアにおいて、オートキャンプの試行を開始することといたしました。キャンプとは別に、ホテルの整備が必要であると認識しております。 ●今回、いただきました、B、Cエリア及びDエリアについてのご提案含め、サウンディング調査の結果を踏まえながら、ヴィレッジエリアの活用を検討していきます。 	C
<ul style="list-style-type: none"> ・市内既存観光施設との連携について、黄金岬やカモイワ公園、ゴールデンビーチ、千望台などをフィールドとしたアウトドア観光事業の構築を留萌観光協会とともに市が開発中と聞いておりますが、これをさらに推し進め、アウトドアアクティビティをヴィレッジエリアA、B、C、Dで終わらせることなく、既存施設を目的地として人を送り込むことにより、必然的に市街地動線に人流を作り出すことができます。アウトドアアクティビティメニューのさらなる開発にも期待するところではあります。また、線路跡地の利活用案として、道 	<ul style="list-style-type: none"> ●ご意見ありがとうございます。 ●今回の拠点施設は、ヴィレッジ内で楽しめるアウトドアのみならず、留萌市内及び管内の魅力的なアウトドア、食、観光施設などについても、紹介することで、各地に人を誘客していくことが大きな役割としております。 ●ご意見いただきましたとおり、今後、より豊かなアウトドアメニューの開発・提供に取り組んでいきます。 	C

<p>の駅るもい～ゴールデンビーチ、道の駅るもい～留萌ダムなどのルートも考えられます。地域内へ広く人流を作り出すための、着地点が必要となります。そこへ向けたウォーキングの遊歩道（兼サイクリングロード）なども留萌の地域戦略の時流に沿ったものであると考えるところです。</p>		
<p>・留萌駅周辺跡地との機能分担について、公共交通、二次交通、生活動線の結節点機能の計画も並行して必要であると考えます。バスを含めた早期の計画公開を要望します。特に、このエリア一体の滞在時間を楽しめることは、交通結節点としても必要不可欠です。例として挙げれば、ここで生活に必要な食料品や生活必需品の一部でも購入する価値があれば、ここを結節点とした市内バス路線（病院など）への再編の実現にも大きく進展を図れるものと期待するところです。なお、バス路線変更の誘因として線路跡地（国道一留萌駅跡地間）に車道を作る必要性が将来的に予測されますが、あえて優劣をつけるならば、車道設置の場合においても歩行空間を優先することが強く望まれます。（例：車道は一方通行一車線にするなど）</p>	<p>●ご意見ありがとうございました。 ●交通結節点機能の充実については、今回いただきましたご意見を踏まえ、検討をさせていただきます。</p>	C
<p>・民間事業者とのかかわりについて、この度のモンベル出店は、地域の機運を高めるのはもちろん、集客力をさらに高めることにより、市内経済の活性化を図るものと理解されます。行政による投資+域外資本による投資の連携となるわけですが、この投資効果を最大限に引き出すためには、市内民間事業者との連携は必須となります。特にビレッジエリアA、アウトドアアクティビティ拠点施設においては市内事業者の出店がしやすいような事業の実施が望まれます。 ・具体例としては、出店のための支援施策や短期チャレンジができる空間の設置、イベントなどによる集客力の定期的な底上げ事業などです。地元企業やモンベルをはじめとする地域内外の出店者が相補的な互恵関係になる関わり合いの創出が成功の鍵であると考えるところです。</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。 ●市としても、市内外含めた民間事業者とも共同しながら、ヴィレッジエリアの充実に取り組んでいくことは重要と認識しておりますので、いただいたご意見含め、検討をさせていただきます。</p>	C
<p>・ゾーンニングについて、道の駅るもいの現状として冬季間の来訪客数が激減するという課題が挙げられます。留萌への来訪目的の減少や、雪上運転などの移動に困難が生じることが考えられますが、商業機能を強化し経済活性を維持するためには通年営業は欠かせず、そのためには閑散期の売り上げ向上を同時に考える必要があります。 ・その解決のために、道の駅るもいが市街地</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。 ●ご指摘いただきましたとおり、冬季間は移動の観点から、市外からの訪れが激減するため、地元の皆様にとっても魅力的な拠点施設、そしてヴィレッジエリアとすることが必要と認識しております。 ●いただきましたご意見やサウンディング調査結果を踏まえ、市外からの来訪者、市民ともに利用していただけるように検</p>	C

<p>に隣接しているという立地が生きてきます。留萌市民はもとより、周辺自治体からの移動距離が極めて短く、さらには元々が公園からスタートした場所であることから、留萌市民の憩いの場（特に冬季はそういった場所が著しく不足している）であることを名実共に充実させることで、同時に二つの課題を解決できるものと考えられます。フードコートは利便性が高く出店者の負担も比較的軽減できるという利点もあるといえますが、子育て中の家族や高齢者が憩うという場の雰囲気作りには不向きといえるでしょう。域外からの来訪者に好まれる空間と、市民が（域外に出ずとも）憩うことに力点を置いた空間の緩やかな棲み分けが求められます。</p>	<p>討していきます。</p>	
<p>・現状も当計画における駐車場の位置も施設から遠く、利便性が高いとはいえません。特に冬季間は車を降りてから施設に向かうまでに吹雪に見舞われ、子どもや高齢者などにとっては利用の障壁となってしまうことが十分に考えられ、駐車場の配置についても再考が求められます。</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。 ●いただきましたご意見を踏まえ、市外からの来訪者、市民ともに利用していただけるように検討していきます。</p>	<p>C</p>
<p>・「食×アウトドア」について、北海道の第9期総合計画にもあるとおり、北海道の強みは「食」「観光」が筆頭で挙げられます。特に留萌はもとより食のポテンシャルが極めて高く、「アウトドア」と「食」の相乗効果を狙うべきであると考えます。現チャレンジショップ、常設店はもとより、ビレッジエリアAの屋内プロムナード（遊歩道）、今後の展開である留萌駅跡地、駅前エリア、まちなか・・・と地元色の強い多様な食を楽しめるという環境は必須ですが、アウトドアが全国的に定着し、現在留萌市としてもここを柱施策の一つとしている今だからこそ、民活によるアウトドアに向けた留萌オリジナル食商品の開発も同時に進めることが必要です。</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。 ●留萌市としても、アウトドアをきっかけに留萌を訪れた方々を、現在の留萌の各地や魅力ある食につなげていくことは重要だと認識しております。加えて、今回、ご提案いただきました新たな食の魅力の開発についても、検討をさせていただきます。</p>	<p>C</p>
<p>・DMO等、運営組織、地域住民の参画について、留萌駅跡地、駅前～まちなか、道の駅るもいは、これからの留萌地域の要となるべき拠点です。この運営については、官の信頼と安定+民の経営手法といった相互の強みを活かした運営組織が必要であると考えます。一例としてDMO（まちづくり組織）が挙げられますが、責任、権限、役割を明確にすることはもとより、ここではペルソナやKPIの設定が求められるものであり、まさにまちづくり組織として相応しいものであると考えるところです。 ・また、留萌市民や周辺住民との情緒的な価</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。 ●ご意見いただきました、管内情報の発信やアウトドア体験商品の開発、実施など、アウトドア推進の核を担っていく組織として、現在、DMO（観光地域づくり法人）の立ち上げを検討しております。 ●立ち上げに際しては、地域の関係者の皆様と協議しながら、検討を進めていきますが、DMOにおいて、官民連携しながら、長期にわたる観光戦略・計画等の策定や、効果的な道の駅推進などについても、進めていければと思っております。</p>	<p>B</p>

<p>値を共有できる空間であることも望まれます。子どもたちの原風景であったり、自らの人生における感動体験を得られる場を作ることが望まれます。</p>		
--	--	--

No.10		
意見内容	市の考え方・今後の対応等	意見配慮区分
<p>・『モンベルが策定し、モンベルが提言した観光ランドデザインの実現のために、モンベルの知見を取り入れた拠点施設を作る』。一見、反対派が書いたようなこの文は、基本構想に書かれている策定理由からモンベル賛美の修飾語を省いただけのもの。市の主体性の無さを露見するものとなっている。モンベルの知見に頼ることしか書かれていない計画に実現性は無い。</p> <p>ところで、観光協会に200万円やらをかけた委託した事業の成果品「観光ランドデザイン」がいつのまにか『モンベルが策定、提言いただいた』という存在にすり替わっている。結局、モンベルにお金を払ってランドデザインを作ってもらったと白状している訳だ。包括連携協定と言いながらモンベルが無償で留萌に提供したものは何も無く、単に（子会社が）受託業務を履行したに過ぎない。連携協定の実は何処に在るのか。この計画に強く反対する所以である。</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。</p> <p>●市として事業を推進するにあたり、市だけではなく、専門的な知見を持った民間活力を活用することで、より効果的な事業につなげることができると考えております。</p> <p>●今回、留萌市においてアウトドア観光を推進するにあたって、アウトドアの専門的な知見を持っている（株）モンベルにご協力をいただきながら、より効果的なアウトドア観光の推進につなげられるよう取組をすすめていきます。</p> <p>●包括連携協定につきまして、あくまでも、市と民間が、双方の同意の上で、地域課題解決に取り組むための協定締結でありますのでご理解願います。</p>	D
<p>・『アウトドア観光の拠点づくり』について、アウトドア資源が無いに等しい本市においては、何を語っても画餅。当地域のアウトドア観光の集客力は極めて弱く、巨額を投ずる価値は無いと考えざるを得ないので、この計画に強く反対する。よその町の観光資源を語るに至っては噴飯ものであるし、振興局や各町村に対して無礼ではないか。</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。</p> <p>●本市のアウトドア資源につきまして、例えば、現在、市として商品化を進めておりますSUPなどのマリンスポーツについて、現在も楽しまれている海岸や留萌ダムなど、楽しめるフィールドが近くに複数あるということで、とても魅力的であると愛好家の方々からご意見をいただいております。まだ原石ではありますが、今後、磨いていくことで、集客につながるものと理解しております。</p> <p>●管内町村には、構想策定の段階で趣旨を説明し、留萌市だけではなく、留萌管内をエリアとして連携しながら取組むことについて、賛同を得ています。今後も、留萌管内1市6町1村、留萌振興局と連携しながら、取組を進めていきます。</p>	D
<p>・拠点施設整備については公設民営方式により市施設として整備するとあるが、この施設に公共性がなければ市の施設として建設することは許されない。では、公共性はどこにあるのか。この施設のコンセプト（アウトドア</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。</p> <p>●公設民営の考え方は、温泉や宿泊施設などの観光施設に代表されるよう、地方においては一定の公共的な役割を担いながら、民営による維持管理を基本とした公共施</p>	D

<p>観光の振興など) を実現することが公共性というのかもしれないが、実現不能なコンセプトを掲げて公共性を語るのは如何なものか。仮にこれに公共性を認めるにしても、モンベルの店舗に公共性があるのかについては厳密に問われるべきだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アウトドア観光について、モンベル自体は特段のノウハウを持たないと見える。モンベルが何種目のアクティビティについて何人のインストラクターを抱えているというのか。留萌に何人派遣できるというのか。 ・薄っぺらな「機能・役割」頁に示されているように、アウトドア観光の展開についてモンベルに期待できるものはほとんどない。なので、モンベル出店に公共性を認めることはできない。なお、集客力や経済波及効果は、モンベル出店の公共性の根拠とはならない。イオンでもユニクロでも大きな経済波及効果はあるのだ。 ・集客力を以って公共性を語ってはならない。公共施設とは到底考えられないモンベル店舗の建設に強く反対する。 	<p>設の整備、運営手法として採用されているものと理解しております。道の駅や観光施設など、集客からの収益を前提とした施設整備で、故に、不特定多数の利用に供する施設ではあるが、従来の「教育や福祉」のような非収益施設にはこの考えは当てはまらないものであります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「公の施設」＝「不採算」では、これからは成り立たないものと考えており、解釈の幅を広げ、道の駅の魅力づくりと、民間参入を促すための方策として、官民の垣根を取り払い、協力、連携しながら地方の魅力を引き出せる企業誘致の手法として、最も有効かつ、市の負担も少なく、将来持続性のある方法として採用するものであります。 ●国内他地域においても、同様の手法で公の施設として、行政目的に沿った施設として整備し、条例化して運用されているものであります。「まち・ひと・しごと創生法」が定められた事がきっかけとなり、「地方創生」という言葉が認知され、国を挙げての地方創生の取り組みは、現在も類似した法案や戦略を基に引き続き推進されています。 ●10年を経とうとしている現在、既に地域活性化に成功した自治体も多数あり、その成功例の1つがモンベル誘致による地域活性化の取り組みであります。道の駅の魅力づくりと、本拠点施設を核に、地域のアウトドアフィールド、資源に惹かれ、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を創り出し、「まち」に活力を取り戻すことで、自立性と持続性を確立できる仕組み作りが必要であり、地域の強みを生かした、新たな産業、企業を呼び込み、魅力とやりがいを感じることが出来るまちづくりを進めていくことが重要と考えておりますので、ご理解いただきたいと思っております。 	
--	--	--

No. 11		
意見内容	市の考え方・今後の対応等	意見配慮区分
<ul style="list-style-type: none"> ・地域振興に際して、外からの専門的力を得ることは有って然るべし。しかしこの事業計画案を見る限り「モンベル誘致・先にありき」が先行、肝心の地元の関係事業者・市民の参画が欠落しているのではありませんか。モンベル誘致に傾倒する市の動きが際立ちます。12億円超の税金を投入、成否が保証されない企業を誘致するこの構想と計画では地域の持 	<ul style="list-style-type: none"> ●ご意見ありがとうございます。 ●この計画については、人口減少問題に直面している留萌市において、地域経済を維持していくためには、現在の地元市民だけではなく、観光客など外から来る人々にも経済を支えてもらう必要があります、いかにそうした関係人口・交流人口を増やしていくかを検討した際に、留萌 	D

<p>続的振興の負の影響が及ぼします。費用対効果からも損失の少ない今、現行の構想と計画の中止を求めます。</p>	<p>市でアウトドア観光を推進すること、そして、その一つとして、アウトドア推進に大きな力を持っている(株)モンベルを誘致することを目指すものとなっております。</p> <p>●もちろん留萌市にとっては、大企業である(株)モンベルを誘致することは大きな挑戦ですが、それだけではなく、(株)モンベルを誘致することによって、留萌市で本格的なアウトドア観光推進につなげていくというのが、基本計画の大きな目的です。</p> <p>●それにあたっては、ご意見いただきましたような、地元の関係事業者及び市民の参画の場として、本計画とは別に、現在、DMO(観光地域づくり法人)の立ち上げの検討を進めているところです。</p> <p>●今後、地元の皆様を巻き込みながら、みんなで留萌市を元気にしていくまちづくりについて、取組を検討していきます。</p>	
<p>・全面積の68.6%をアウトドア関連商品売り場にする拠点施設建設に、国民・市民の税金12.7億円も投入する計画を進めるべきではありません。モンベル関係商品販売目的(想定)の売り場確保のために、あえて公設と銘打って巨額の税金を投入して企業の進出に便宜を図るこの建設計画は中止するべきです。アウトドア観光資源発掘やビジターセンター的業務は現管理棟でやるべき。</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。</p> <p>●公設民営の考え方は、温泉や宿泊施設などの観光施設に代表されるよう、地方においては一定の公共的な役割を担いながら、民営による維持管理を基本とした公共施設の整備、運営手法として採用されているものと理解しております。道の駅や観光施設など、集客からの収益を前提とした施設整備で、故に、不特定多数の利用に供する施設ではあるが、従来の「教育や福祉」のような非収益施設にはこの考えは当てはまらないものであります。「公の施設」=「不採算」では、これからは成り立たないものと考えており、解釈の幅を広げ、道の駅の魅力づくりと、民間参入を促すための方策として、官民の垣根を取り払い、協力、連携しながら地方の魅力を引き出せる企業誘致の手法として、最も有効かつ、市の負担も少なく、将来持続性のある方法として採用するものであります。</p> <p>●国内他地域においても、同様の手法で公の施設として、行政目的に沿った施設として整備し、条例化して運用されているものであります。「まち・ひと・しごと創生法」が定められた事がきっかけとなり、「地方創生」という言葉が認知され、国を挙げての地方創生の取り組みは、現在も類似した法案や戦略を基に引き続き推進されています。</p>	<p>D</p>

	<p>●10年が経とうとしている現在、既に地域活性化に成功した自治体も多数あり、その成功例の1つがモンベル誘致による地域活性化の取り組みであります。道の駅の魅力づくりと、本拠点施設を核に、地域のアウトドアフィールド、資源に惹かれ、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を創り出し、「まち」に活力を取り戻すことで、自立性と持続性を確立できる仕組みを作りが必要であり、地域の強みを生かした、新たな産業、企業を呼び込み、魅力とやりがいを感じることが出来るまちづくりを進めていくことが重要と考えておりますので、ご理解いただきたいと思っております。</p>	
<p>・「地元の参画」が決定的に欠落している構想と計画で持続的波及効果を期待すること自体無理な発想と思われませんか。税金を使い「何かを与えれば何とかなる」、市民主体の自治体活動から乖離していることに気づいてください。</p> <p>・地元関係者と共同企画してこそ波及効果が生じるのではないのでしょうか。市民と共同してこそが自治体活動の原点。自治体としての発想が逆転しています。「モンベル誘致で波及効果を」などと安易な考えを止め、留萌市の現状打開に真摯に向かい、真剣に探求し挑戦する市役所・職員であることを望みます。</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。</p> <p>●ご意見いただきましたとおり、今回のアウトドア観光の推進にあたり、観光を通していかに持続可能なまちづくりを進めていくかについて、地元の事業者や市民の皆様とともに進めていく組織として、DMO（観光地域づくり法人）の立ち上げを現在検討しております。</p> <p>●実現に向け、市民の皆様とも共同しながら、検討を進めていきます。</p>	B

No.12		
意見内容	市の考え方・今後の対応等	意見配慮区分
<p>・拠点が整備されることで、留萌市観光ランドデザイン コンセプトの実現に向けて動き出すことを期待しています。</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。</p> <p>●拠点施設の整備とともに、留萌市及び留萌管内で楽しめるアウトドア体験の開発も並行して進めることで、本格的なアウトドア観光の推進に取り組んでいきます。</p>	D
<p>・拠点整備に向けて、現段階では地域への波及効果は「期待される」内容にとどまっております。今後、拠点を活用した具体的な取り組み内容や取組目標が決まってきましたら、市民向けに説明することが必要と考えます。観光客受け入れへの地域理解をえるため、また、事業者が少ない中担い手としての市民の役割が期待されるためです。</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。</p> <p>●ご意見いただきましたとおり、市民の皆様は観光客受入への理解を深めていただくこと、そして担い手を育成することが重要だと市も認識しており、拠点施設を中心とした、市内各地及び管内への誘客の仕組みづくりや、ヴィレッジ内でのアウトドアの楽しみ方の開発なども含め、より丁寧な説明に取り組んでいきます。</p>	C
<p>・ビジターセンターおよびコーディネイト機能充実のため、体験型コンテンツの開発、様々な情報の集約・整理、人的ネットワーク</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。</p> <p>●アウトドア観光推進のためには、管内町村、振興局、幅広い関係団体にもご協力を</p>	C

<p>の構築などに取り組みられると思います。周辺の市町村、観光協会、振興局、関係団体等との連携が図られると考えますので、よろしくお願いします。</p>	<p>いただきながら取り組む必要があると認識しております。今後、連携しながら進めていきたいと思ひます。</p>	
---	---	--

No. 13		
意見内容	市の考え方・今後の対応等	意見配慮区分
<ul style="list-style-type: none"> ・プラン資料を見た限り、留萌の地域性を描く部分が少なすぎる。 ・我々一般庶民は、月々の所得を得、衣食住を賄い、ゴミを出す。同時に個々人の心を整え、学び、表現し、集う。これらを繰り返してこの街に生を受けています。外域から企業資本を呼び込み経済活動を促すことは一部理にかなっていると思ひます。しかし、規格外の経済理論を展開し、現状多くの分裂と不協和を発生させていることは深く気に掛けるべきではないでしょうか。 ・生活や文化はもともと非効率であり、自然の生態系に似ています。一度壊れてしまえば復活するためにはさらに長い時間を要することになります。表面上の成功事例を並べる傍らで多くの生活文化は瀕死の状態ですし、そのことを「淘汰だから仕方がない」と片付けてしまうことは、大量の窒素肥料を投入し大量の収穫を良しとする大規模営農に似ています。実際にその畑は土壌酸性化のスパイラルに突入してゆくことになります。 ・私達の公共観、歴史、伝統文化を具体的戦術の無いモンベル依存経済構想に委ねる事は大変危機感をおぼえます。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ご意見ありがとうございます。 ●本基本計画については、道の駅るもいにおいて、アウトドアヴィレッジとしての事業展開を進める上で、道の駅るもいと周辺の魅力向上や、当地域の自然資源に着目したアウトドアの側面に着目したコンセプトを記載させていただいております。 ●当地域の歴史、伝統文化をまちづくりに生かす視点については、全く否定するものではございませんが、モンベル進出を契機にこれらが壊れるという発想は結びつくものではないものと考えております。 	D
<ul style="list-style-type: none"> ・どんどん複雑なレイアウトになっていく感が否めない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ご意見ありがとうございます。 ●ご意見いただきましたとおり、複雑になるほど、ヴィレッジ全体としての統一感が重要になってくるかと思ひますので、常に全体を見ながら、市内外ともに、多くの皆様にとって魅力的なヴィレッジエリアにしていけるよう、検討を進めていきます。 	C
<ul style="list-style-type: none"> ・誰がどう幸福になるのかが不明瞭です。 ・そうした古くからの地域性には一旦我慢していただいて、高額なアウトドアアクティビティの公共投資を行うことには市内土建業者存続のための重要な出資といった側面もあるでしょう。出資額の半分ほどは国庫よりの補助で賄えるなら絶好のチャンスだといった側面もあるでしょう。公金を流用するにあたり、国や道との政治的配慮や思惑について詳細まで追うことは一市民としては無理な話です。今後新たな情報が報道される機会を 	<ul style="list-style-type: none"> ●ご意見ありがとうございます。 ●道の駅の経済効果としては、道の駅で販売している飲食・特産品等などの売上が向上することによって、関連事業者の売上増につながったといった経済波及効果などが挙げられています。そのため、関連事業者以外の一般市民の方々で実感する機会は多くないかもしれません。 ●しかしながら、市としては、人口減少によって、買い物をする場所が少なくなって困る市民が増えたり、まさに今回ご指摘い 	D

<p>待ちたいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しかし最終的に誰が得をするのでしょうか？少なくとも留萌市民では無い。このところ新聞媒体やプラン資料などでも良く取り沙汰される「経済効果」。それは現在我々の不便を改善したでしょうか。日々暮らしの労力を軽くしたでしょうか。道の駅が出来てからむしろ削られた行政サービスがあります。公共料金も値上がりしました。パブリックコメントを募る計画であるならば、それら行政サービスへの影響が示せて初めて具体的政策と言えるのではないのでしょうか？我々は生活者であり、庶民です。損得以外にも様々な諸関係に支えられ生きております。 	<p>ただきました税収減少による市民サービスが低下することなどが想定されるため、アウトドア観光を進めることで、地元市民だけではなく、留萌市を訪れる観光客に地域の経済を支えてもらい、生活機能を維持して、市民生活を守っていきたいとの思いから、現在の取組を進めております。</p> <p>●税収はすぐに効果が出るものではないため、長期的な視点とはなりますが、市民サービスの向上にもつなげていけるよう検討していきます。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・そもそも道の駅とは地域住民にとって何なのか、論じられている部分が少ない。管理とは運営とは何なのか。定義を求めます。 	<p>●ご意見ありがとうございます。</p> <p>●国土交通省の定義によりますと、「道の駅」とは道路利用者にとっての「休憩機能」、道路利用者や地域の方々のための「情報発信機能」、そして「道の駅」をきっかけに町と町とが手を結び活力ある地域づくりを共に行うための「地域の連携機能」、の3つの機能を併せ持つ休憩施設」とされております。</p> <p>●道の駅るもいの開業後、「あそこにおいてみよう」というきっかけの場所となっており、また、チャレンジショップなどへの地元事業者の新たな出店や、地元特産品をアンテナショップでの販売増にも貢献し、「道の駅」の看板が人の流れや、地元事業者の新たな事業喚起につながっているものと考えております。</p>	D
<ul style="list-style-type: none"> ・アウトドアビジネスから我々は何を学ぶことになるのでしょうか。 ・「経済効果」に価値があるとすれば額面の大きさではなく、中身の分析が重要と考えます。「産業連関論」という理論がありますが、「相対性理論」などと同じく「難しそう」という印象で説得力を誇示するのではなく、本当の意味で「産業連関論」の応用が急がれていると思われまます。「産業連関論」は高校生でも分かる理屈であり、古くから信頼されている経済理論であることを、ここで押さえておこうと思います。 ・私は庶民の実生活の中から生きた経済活動が生まれていると見ております。発展とは何なのか。最先端のビジネスモデルに乗り遅れては時代から取り残される～等の声は収まることはありません。暮らしの豊かさは細部に宿るものなので大衆の紛糾に惑わされることは大変危険です。 ・荒唐無稽な話をしたいわけではありません。 	<p>●ご意見ありがとうございます。</p> <p>●市としてはこの地域にモンベルを誘致することで、経済的な波及効果は勿論だが、全国的なブランドの進出を契機に、北海道の中でも留萌エリアに人が集まり、道内における存在感が増すこと、さらには、「まちに変化」を呼び込むきっかけとなることを期待しているものであります。</p> <p>●地域の機運を高めるのはもちろん、集客力をさらに高め、本施設の投資がさらなる域外資本による投資を生むような投資効果にも期待しており、市内民間事業者との連携は不可欠と考えております。</p>	D

<p>今現代世界にあるものは、学問、宗教、政治、芸事、スポーツ、音楽、化学、経済、上げればキリがないが全て同じ歴史上で繋がっています。一地方都市といえどその流れと無関係ではけして無い。地域住民は日々の生活感情のなかでその時代に隆盛を極める価値観とともに生きています。身近なスマホやインターネットだけを見ても、量子力学や言語学、欧米サブカルチャーの歴史と深くかかわっています。小さな田舎の商業活動や芸事・文化活動でもビジネスでもとある一定以上のレベルに差し掛かると個人感覚のレベルを超えて歴史と向き合わざるをえず、それを無視したどんな営みも一時期発展しても必ず斜陽へと向かいます。これまでに消えた留萌の産業を憶えているでしょうか。消えた理由を公で議論がなされたことがあったでしょうか。諦めと忘却に済ませていないでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅が留萌に登場し、来場集客は増えたが、一般庶民の地域への理解度が向上したかはとても疑問が残る。道の駅が何のために公共施設として作られたのか、明確な論説が未だなく出てきた数字に「よかった」の報道が繰り返されるばかりだからである。 ・今も様々な産業分野で現状を維持しよう、迫りくる現実に抗い続けている人々や業界はあります。「抗い続ける」それを経営と言います。まともな経営者は淘汰される側とならぬよう注意を払い学び続けています。法に触れぬ限り、あらゆる活動を肯定いたします。 ・信用される事と高い売り上げが見込める事とどちらを選ぶのか。政治的に言い換えれば安全保障と経済振興どちらを取るのか。迷い揺れ動いて当然。この両立は今後も常に問われ続けるテーマでしょう。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・今現在の留萌に必要な、未来思考型の高額政治イベントだとしても、何をしたいのか描かれていない。心を打つ響きが伝わって来ない。作品として成立していない物に感想も持ちようがない事を残念に思います。過去の多くの事例分析から解を導き出す手間と時間をかけてはどうでしょうか。一見無意味な些事にも科学的な根拠は存在します。そうした蓄積の中からしか成果は生まれてこないと思うが故です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ご意見ありがとうございます。 ●市としては、人口減少によって、留萌で生活することに困る市民や留萌を離れなくてはならない市民が増えることが想定される中、アウトドア観光を進めることで、地元市民だけではなく、留萌市を訪れる観光客に地域の経済を支えてもらい、生活機能を維持して、市民生活を守っていききたいとの思いから、現在の取組を進めております。 ●ご意見のとおり過去の事例や他市町村の取組なども参考にしながら、より効果的な取組について検討していきます。 	D

No.14		
意見内容	市の考え方・今後の対応等	意見配慮区分
<p>・ 駐車場について、拠点施設前面に設置する駐車場には専用の出入り口を設置するイメージになっていますが、道の駅駐車場と混乱を招く可能性があります。現状でも逆走車（出入り口を間違える）などわかりづらい部分があり、連絡通路でつながることで一層の混雑や逆走の原因になる可能性があると思うので、駐車場の計画、車の動線計画はしっかりと考えてほしいです。</p> <p>・ 国道側をすべて駐車場とし管理棟から拠点施設までインターロッキングの広い前面スペースを設けてはどうでしょうか。</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。</p> <p>●今回のご提案含め、公安委員会や北海道開発局とも協議をしながら、駐車場の配置、車の動線などについて、今後も検討を進めていきます。</p>	C
<p>・ 芝生広場を現状のまま維持する計画には大賛成です。この大きさを整備の行き届いた芝生広場は留萌市と市民の財産でありこのまま大切にしていきたいです。</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。</p> <p>●芝生広場については、多くの市民の方が利用されていると認識しておりますので、今後もぜひご活用いただきたいと思えます。</p>	D
<p>・ ドッグランについて、ドッグランは犬を連れて旅行をしている道の駅利用者にとって駐車場から遠いので見づらい上にわかりづらいので、駐車場に近い位置（ヴィレッジエリアC）などに移動するとよいと思う。</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。</p> <p>●ドッグランの位置や、わかりやすい周知などにつきまして、今後検討をさせていただきます。</p>	C
<p>・ 既存施設との関係性について、現在管理棟が道の駅としてのメイン施設だと思いが、拠点施設に観光案内機能が移管されると道の駅としてのメイン施設は拠点施設になってしまうのではないだろうか？</p> <p>・ 道内のモンベルが併設されている道の駅では、あくまでも道の駅としての機能はモンベルとは別に設けてあることから、観光案内機能はモンベルから分けるべきだと思う。</p> <p>・ 利用者目線から上記のことを考えると、公園のレンタル物品を借りて拠点施設のビジターセンターで手続きをして、ビジターセンターにはストックスペースがないので結局管理棟まで物品を取りに行くことなのではないだろうか。利用者にとっては二度手間になるだろう。</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。</p> <p>●拠点施設はアウトドア観光推進の核となる施設として、ビジターセンター機能を備えることは必須であるとともに、観光案内機能については、拠点施設内のビジターセンター機能と切り離すことはできず、管理棟と拠点施設の2箇所での提供に、道の駅利用者の混乱を招くことや、役割の重複につながるものと判断し、拠点施設内に集約することを考えたところでありました。</p> <p>●今回のご指摘を踏まえ、あらためてアウトドアではない、通常の観光や道路情報の提供方法とのすみ分けや道の駅内の人の導線なども改めて検証しながら、今後の管理棟の役割や、利用者への負担とならないレンタルの仕組みなどについても、指定管理者の意見もお聞きしながら、今後検討を進めていきます。</p>	C
<p>・ ヴィレッジエリアAは「道の駅⇔複合施設⇔駅前⇔まちなか」とつながってゆくととても大切な空間だと思う。拠点施設に接続する形でフードコートや産直市場などが今後増築されていくと、「道の駅るもい」のコンセプトでもある「成長する道の駅」になるのではないだろうか。新交流複合施設の一部機能がこ</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。</p> <p>●ご意見いただきましたとおり、市としても、ヴィレッジエリアAは、街中への誘導の仕組みづくりを担う重要なエリアとして認識をしております。</p> <p>●今回、いただきましたご意見やサウンディング調査の結果を踏まえ、検討を進めて</p>	C

<p>のエリアにつくられることもよいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・またこのエリアに並走する連絡通路は歩行者メインのプロムナードになるようにして、一般車両は乗り入れ禁止にするべきと思う。稚内駅前の広場のように線路を残して舗装すると、駅と鉄道があった記憶を残すことができると思う。 ・見晴公園のSLをこのエリアに移設することで留萌駅と鉄道の記憶を残すことができると思うが、現在のような野ざらしではなく、風雪に曝されないように屋内に設置してほしい。 	<p>いきます。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・拠点施設について、拠点施設のメイン出入り口が西側（海側）に向いているので冬季間にとっても使いづらくなる可能性がある。出入り口は北側に設置するのはどうか。 ・1階の各機能が全体的に間仕切りで仕切られていて一体感に欠けている。物販飲食施設以外は空間としてつなげてよいのではないか。（特にモンベルショップとビジターセンター） ・モンベルを中心とした数年にわたる拠点施設ですから妥協のないしっかりとした計画を練って年間を通して活用できるように工夫してください。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ご意見ありがとうございます。 ●いただいたご意見も十分踏まえ、今後、実施設計において、当地域の風況や雪などの対策や、一体感が持てるような空間の活用なども考慮してまいりたいと考えております。 	<p>C</p>

No. 15		
意見内容	市の考え方・今後の対応等	意見配慮区分
<ul style="list-style-type: none"> ・『人口減少』問題は全道179市町村・全国の市町村の抱える共通の課題です。道内では一極集中が続く札幌、ラピダスが進出する千歳市周辺、インバウンドによるニセコ町等人口増加の地域もありますが、ほとんどの市町村がこの問題を抱えながら厳しい運営を余儀なくされています。 ・今回の中西市長による「令和6年度市政執行方針」の中で示された、2050年の留萌市将来推計人口が「8995人」と現在の半数以下に減少するという内容は、物凄く衝撃的なものであり、かつ背景認識としては極めて重要な内容と受け止める必要があります。 ・こうした認識のもと、これ迄の留萌の常識・既存の考え方を排し或いは乗り越えて、リスクを恐れずに果敢にチャレンジし、新たな明るい留萌の未来を目指していく必要があると強く感じています。 ・市長が常に話されている「チャンス」「チェンジ」「チャレンジ」の精神で、今回の計画実現に向けて力強く取り組んでいただきたいという事を、まず要望したいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ご意見ありがとうございます。 ●市として、人口減少問題は重く受け止めており、本格的なアウトドア観光の推進により、関係人口を創出することによって、生活機能など市民生活を維持することが重要だと考えています。 ●ご意見をいただきましたとおり、これからも、留萌市の将来を見据えた施策に取り組んでいきます。 	<p>D</p>

<p>・なお、市役所に対しては、今回の基本計画（案）を引き続き丁寧に説明するとともに、様々な不安や懸念点を払拭し、有益かつ可能な意見は積極的に取り入れ、多くの市民の共感と納得の合意形成に粘り強く取り組んでいただきたいと思います。</p> <p>・また、各組織・団体、市民各層・そして市民一人一人にあっては、単なる問題指摘や批判・反対の為の反対ではなく、課題に対する対案も示しながら、自らそして自身の孫子が今後も住み続ける「ふるさと留萌」の街づくりに向けて、『前向きかつ建設的』な意見発信・行動が望まれると思います。</p> <p>・そういった行政・経済界・諸団体、そして市民一人一人の『未来志向の考え方』を集約する中でこの計画を実現していく事が、今回の計画の成功、そして留萌市並びに留萌管内の今後の発展に結びついていくものと考えます。</p>		
<p>・当基本計画に対する質問・疑問として、「何故モンベルなのか?」「モンベルも民間企業であり、万一撤退した時にはどうするのか?借金だけが残り、市民の負担になるのではないか?」等の声が聞かれます。モンベルの掲げる企業理念や基本的な考え方（7つのミッション）についての更なる理解・浸透に向けた取り組み努力が必要と思います。</p> <p>・モンベルは既に全国に「公設民営型」を基本にして10自治体での施設展開を行っています。私達は、モンベルがそれらを通じての経験値や豊富なノウハウを有していることを十分に認識・理解しておく必要があります。そして、モンベルは自らの経験をもとにして、留萌管内のリサーチをする中で「留萌地域のポテンシャル」を高く評価して今回の進出を計画しているものと思います。</p> <p>・今私達が何気なく普通に暮らしているこの地域にそうした魅力や素晴らしい財産があるという事を十分に認識し、この「チャンス」を積極的に捉えて自らの手でつかんで行く事が今こそ求められていると考えます。</p> <p>・当然のことながら、民間企業であるからには「採算性」がありますが、その一方で、現在の世の中では「企業の社会的責任」が企業価値を高めるものとして、より重要視されてきています。『官民共創』の理念のもと、お互いの知恵を出し合っただけでそれぞれがメリットを享受できるようにしていく事が重要であると考えます。</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。</p> <p>●いただいたご意見のとおり、本計画に関する不安や疑問をお持ちの市民の方々がいらっしゃることは市としても把握しており、今年度はまちづくり懇談会や広報留萌のコラムコーナー、市民説明会の開催により、そうした疑問に答える機会を設けたところです。</p> <p>●今後も、引き続き、市民の皆様の不安に寄り添えるような形を検討し、実施していきます。</p> <p>●また、ご意見のとおり、留萌の自然を素晴らしい魅力、強みとして認識した上で、（株）モンベルの誘致により本格的なアウトドアフィールドを醸成し、アウトドアをきっかけに留萌に来た方々の街中への誘導により地域の稼ぎにつなげていくことを目指していき、その取組については、（株）モンベルのみならず、様々な事業者や市民の皆様からご協力をいただきながら進めていきます。</p>	D
<p>・今回の「モンベルアウトドアヴィレッジるもい基本計画」は、留萌市にその施設を作るものですが、これを通じて留萌管内各市町村と</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。</p> <p>●アウトドア観光を推進していくにあたっては、留萌市だけではなく、留萌管内の</p>	C

<p>の繋がりをもとにした、還流人口の流れを直接・間接的に実現するものであって欲しいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夫々の市町村には、行政・産業界・住民ともに強い『我が町意識』があります。それはそれでいいのですが、とかく「我が町だけは」という意識が強すぎる面もあると感じます。 ・今回の計画が留萌管内全体に明るさや良循環をもたらすものとなるよう、中心となる留萌市においては、留萌振興局との十分な連携のもと、管内の他町村との協議・協力体制を構築し、緊密な連携のもとこの計画実現に向けて取り組んで頂くことを強く希望します。 	<p>すばらしい自然やアウトドアの魅力を一緒に楽しんでもらうことで、より充実した観光コンテンツを多くの人に提供につながるものと理解しております。</p> <p>●今回の「アウトドア・アクティビティ拠点施設」については、そうした留萌管内への誘客の機能も有しており、機能を発揮するためには、他の管内の町村との連携は必須と考えておりますので、今後振興局とも連携しながら、取組を進めていきます。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・「D61」の有効活用を通じた発信 <p>現在見晴公園に設置されている「D61」は国内で静態保存されている唯一の機関車であり大変価値のあるものです。これを「ヴィレッジエリアA」の中に移設して、展示・運転席への乗車ができるようにする等、鉄道ファン、子供達を始め一般市民が直ぐに見れるようにする事を要望します。(既に市議会の中では調査・実施方向も示されていますが、是非実現をお願いしたいと思います)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・可能であれば、別途客車2～3両を連結させて、その中に旧留萌駅内に置かれていた展示物や鉄道備品を展示する、あるいはその客車を休憩スペースとする等の活用を検討していただきたい。 ・オープン時には、六角精二氏を招いてのイベントを実施、そのパブリシティも行き、テレビ番組にも活用してもらおう。その事により、留萌並びに当計画のPR発信ができると思います。(六角精二氏は既に冬の留萌駅に来た時に「D61」を見に見晴公園にも足を運んでおり、再度雪のない時に来ることを明言しています) 	<ul style="list-style-type: none"> ●ご意見ありがとうございます。 ●現在見晴公園のSLについては、今回ご提案いただきました鉄道遺構の活用を基本計画に反映させるとともに、引き続き活用方法について調査・検討を進めていきます。 	A
<ul style="list-style-type: none"> ・「音楽のまち留萌」の更なる発信について、留萌は「音楽のまち」とも呼ばれています。吹奏楽、合唱、バンド等の活動が活発に行われていますが、留萌が生んだ日本における著名な音楽家である「佐藤勝さん」「森田公一さん」お二人の記念展示室を、今回の計画の敷地内に設けることを提案します。 ・新たに建設される複合施設内でもいいと思いますが、是非これは具体検討をお願いします。観光客に対する新しい目玉にもなると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ご意見ありがとうございます。 ●ご提案の内容につきまして、庁内で共有し、検討をさせていただきたいと思います。 	C
<ul style="list-style-type: none"> ・当計画を市民一人一人の幅広い共感と合意のもとで実施していくための方策として、以下の取組を提案します。 <p>①当基本計画に対して、市民説明会やパブコ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●ご意見ありがとうございます。 ●今回の市民説明会やパブリックコメントを通し、市民の皆様が感じられている不安や疑問などを、少しではありますが、知 	C

<p>メを通じて寄せられた質問について、取捨選択する中で、当計画をより市民一人一人に理解してもらうための『Q&A』を作成して、あらゆる媒体（冊子・新聞、ラジオ、HP等）を通じての教宣・PRを行っていく。</p> <p>②「エフエムもえる」で上記『Q&A』をテーマとした特別番組を放送する。</p> <p>③留萌市文化センター・留萌市産業会館等で、市役所担当者、賛成意見派、反対意見派の三者による「市民討論・説明会」を開催して、広く市民に計画内容の共有化と課題に対する対応方向に対する理解促進の場を提供する。</p> <p>④『Q&A』をもとにした、「市民車座懇談会」を各地域・町内等で開催して理解促進と意見吸収を図る。</p> <p>以上は、スケジュールとの関係でどの程度まで実施できるかという問題ではありますが、こうした従来にはない方法での市民を巻き込んだ取組みを、思い切って大胆に実施していくこと、とりわけ推進主体である市役所(担当課)には、そういった意気込みを持って取組んで頂きたいと、強く希望するとともに期待もしています。</p>	<p>ることができました。</p> <p>●今回のあげられた質問、疑問については、他にも同様の不安を抱えていらっしゃる市民の方々もいるかと思っておりますので、ご提案いただきましたアイデアを含め、より丁寧な説明を検討させていただきます。</p>	
<p>・「ふるさと留萌」は当然今暮らしている市民が一番の主人公ではありますが、今住んでいなくても留萌の事を想いその発展を願っている沢山の方々がいることも忘れずに、今回の計画を「未来志向」で考えていって欲しいと願っています。</p> <p>・そして、今の子供達が大人になった時に、「留萌で生まれ育ち、留萌で暮らしていて良かった」と感じれるような『ふるさと留萌』を創り上げていく事が、我々大人の責任であると思います。「留萌市」の今後の発展を心から願っています。</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。今回の計画につきましては、現留萌市民のみならず、元々留萌に所縁のある方々、近隣の方々からも注目をされているものと理解しております。</p> <p>●色々な方々のご意見、思いをいただきながら、より良い留萌づくりにつなげていけるよう、取組を進めていきます。</p>	D

No.16		
意見内容	市の考え方・今後の対応等	意見配慮区分
<p>・留萌市民、そしてアウトドア愛好家の一人として、コメントさせていただきます。まず、モンベルショップの規模についてです。物販施設は道内最大級とのことですが、そのように大きなものを作ってしまうことは大変危険です。アウトドアで市外から来る場合には、その人たちはアウトドア愛好家でしょうから、一通りの装備は持っています。となると、メインの対象は市民とその周辺住民とならざるをえません。しかし、アウトドア用品は品質が高いので、どうしても高額になってしまいます。その点、ワークマン等が低価格</p>	<p>●ご意見ありがとうございます。</p> <p>●ご意見のとおり、低価格で気軽に使用できる衣類への需要が高いことも事実である一方で、少し価格は上がるものの、高品質なアウトドア衣類を求める層も確かにいらっしゃると、市としては理解しております。</p> <p>●今回、誘致を目指しております（株）モンベルの衣類については、アウトドアブランドの中では比較的安価で、軽く高品質であることから、今、留萌市内で既に使用している漁業関係者の皆様や市民</p>	C

帯で参入していることもあり、従来のアウトドアブランドはどうしても高価なものに見えてしまい、近年は初心者を中心に避けられがちです。また、作業着需要も狙えるのですが、日常的に用いるならば、従来通りの専門ショップの物の方が低額で使いやすいです。ということで、留萌においては、モンベルショップの売り上げはなかなか厳しいものがあるでしょう。むしろ、スキー場にあるような、忘れ物をちょこっと買い足す程度の小さなショップが求められている規模だと思えます。

・力を入れるべきは、アウトドアヴィレッジの方でしょう。こちらは、今はほとんど知名度がない留萌の自然がモンベル会員に伝わるということで、大変な魅力があります。そこで、留萌が目指すべきは、アウトドアヴィレッジの充実と、ショップの小規模化です。永続的な事業とするならば、とにかくアウトドアヴィレッジに注力すべきです。道内最大規模のショップなど、留萌の購買力で支えられるはずがなく、そのような大きな物を作ってしまうと、かえってモンベル撤退の危険性を高めてしまいかねません。

の方、そして、他の地域でも普段使いをされている高齢者がいらっしやると聞いております。そうした衣類といった日常的なニーズに加え、現在推進しておりますアウトドアを楽しむための専用用品を十分に提供していただくことを鑑みて、市として、現状の売り場面積が必要と判断いたしました。

●今回のご指摘は、売り場面積の広さに対して収益が少ない場合に撤退に繋がってしまうのではというご懸念かと思えます。今回誘致を目指しております（株）モンベルは、都市部だけではなく、南富良野などアウトドアの自然に近い場所にも出店をしており、地方に出店するコンセプトとしては、道の駅に出店し、道の駅の集客につなげることや、アウトドアを楽しむ現地において、商品購入もできれば、訪れる方の利便性も高まるというのが基本的な考え方であると、市として理解しております。

●あまりにも不採算となりますと民間企業ですので判断が必要になってくると思いますが、他の地方も含め、地方において高額な売上を求める企業ではないと理解しており、そうした視点から今回の店舗面積含め、留萌への出店を検討していただけていると考えております。

●ご意見いただきました、ヴィレッジエリアの充実につきましても、検討を進めていきます。